

令和3年度 事業計画書

目 次

I 総括

- | | |
|----------------|---|
| 1 基本方針 | 1 |
| 2 重点項目 | 1 |
| 3 新型コロナウイルスの影響 | 1 |

II 事業計画

- | | |
|--------------------------|----|
| 1 調査啓発事業 | 2 |
| 2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 | 3 |
| 3 資源化事業 | |
| 3-1 剪定枝等処理事業 | 4 |
| 3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業 | 5 |
| 3-3 施設管理受託事業 | |
| (1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業 | 7 |
| (2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 | 9 |
| (3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 | 10 |
| (4) 札幌市リサイクル団地管理事業 | 11 |
| 3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業 | 12 |
| 4 事業系ごみ収集運搬事業 | 13 |

I 総括

1 基本方針

札幌市は、平成30年3月に、一般廃棄物処理基本計画「新スリムシティさっぽろ計画」を策定し、これまで行ってきた廃棄物の減量・リサイクルと適正処理の取組をさらに推し進めている。

については、札幌市と連携しながら各事業を進めている当公社も、廃棄物の適正処理と減量・リサイクルを着実に進めていくために、下記2のとおり、重点項目を定め、その取組を行っていく。

- ・事業系ごみ収集運搬事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響でごみ量が大幅に減少し、特にすすきの地区周辺の収集量の減少が著しいが、ごみ量の変化に対応した収集体制として収集の効率化に努めるとともに、適切な作業の実施及び顧客サービスの向上を図るため、関係各社と連携した取り組みを行っていく。
- ・資源化事業においては、平成10年から稼働させている中沼、駒岡の資源選別センターの施設の老朽化が進んでいることから、前年度に引き続き計画的な保全事業を実施し、安定的な施設運営を行っていく。また、札幌市から管理運営を受託している施設も老朽化が進んでいることを踏まえながら、札幌市と連携して適切な管理運営を行っていく。
- ・調査啓発事業においては、リサイクルに関する調査研究を行うとともに、顧客や市民に向けて、ごみの減量・リサイクルの重要性や公社の取組について積極的な情報発信を行なう。
- ・安定的な事業運営を行っていくため、事業環境の変化や社会のニーズに対応しつつ、事務・事業の見直しと経費の節減に努めていく。

2 重点項目

- (1) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化
- (2) 施設の計画的な保全
- (3) リサイクルに関する研究
- (4) 顧客や市民への積極的な情報発信と多様なニーズへの対応
- (5) 事務・事業の見直し及び経費の節減

3 新型コロナウイルスの影響

昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染に伴う消費活動や事業活動の低下等の影響により、本計画のごみ量の変動することも十分考えられる。

II 事業計画

1 調査啓発事業（予算額 48,078 千円）

■事業概要

事業経緯	公社設立当初の平成2年から実施している自主事業。平成24年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	・調査研究事業～ごみの資源化やリサイクルに関する調査研究を実施。 ・普及啓発活動～資源循環型社会の実現に向けて、ごみの減量やリサイクルの重要性について広く市民や顧客に普及啓発するため、(1)広報活動による情報発信、(2)環境関連のイベントへの出展や協賛を行っている。
目的・効果	リサイクルに関する調査研究、リサイクルの普及啓発。

■令和3年度事業計画

(1) 調査研究事業

①粉砕機ハンマーに関する調査研究

消耗品であるハンマーに関するコストダウンと効率的な処理を目的とした調査研究を平成29年度から実施している。引き続き、従来品と形状や材質の異なるハンマーの摩耗状況や処理能力の違いについて調査を実施する。

②剪定枝等の受入状況調査

近年、国内では木質バイオマスの利用拡大に伴い、事業者間で木材等の調達競争が激化している。当公社の剪定枝等処理事業についても、今後、受入量の減少が予想されることから、今後の事業運営の検討資料とするため、チップ工場で受け入れる剪定枝等の発生場所や業種毎の搬入量等について調査を実施する。

(2) 普及啓発活動

①広報活動

- ・当公社の事業内容及び各年度の事業実績等をまとめた「事業概要」を250部発行し、関係先に配布する。
- ・びん・缶・ペットボトルリサイクルの普及啓発のため、札幌市内小学校4年生向けの「キッズパンフレット」を18,000部発行し、市内全校に配布する。
- ・札幌市内の小学校から、びん・缶・ペットボトルのリサイクル等に関する啓発ポスターを募集し、最優秀賞となったものを当公社のごみ収集車の車体側面に掲示して「走る掲示板」として啓発活動を行う。
- ・ホームページ等を通じて、公社事業の最新情報を発信する。

②イベントへの参加・協賛及び広告掲載等によるPR

- ・「環境広場さっぽろ」等の環境関連イベントに出展し、ごみ減量やリサイクル等の普及啓発に努める。
- ・「さっぽろ子ども環境コンテスト」等に協賛するとともに、雑誌等の各種広告媒体を活用した広報活動・普及啓発を行う。

2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (予算額 61,746 千円)

■事業概要

事業経緯	平成 21 年 4 月から実施している公社の自主事業。平成 24 年度からは公益目的支出計画の実施事業としている。
実施内容	市内少量排出事業所から不燃用プリペイド袋で排出される不燃ごみを対象に、びん・缶・ペットボトル、金属類等の資源物を選別してリサイクルしている。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場内に設置した積替保管施設 ※チップ工場 昭和 63 年 3 月完成の市有施設 (公社が無償借り受け) ※選別に係わるものは公社が設置
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化。

【選別品目と活用方法】

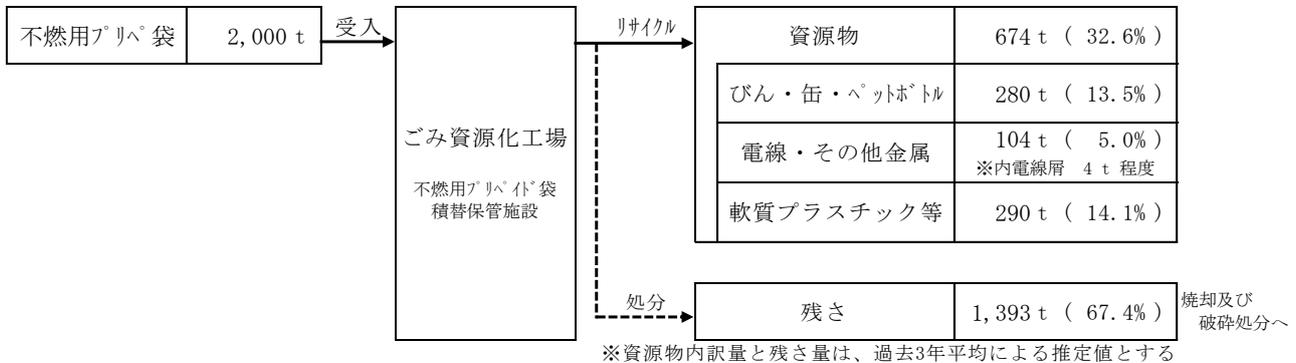
選別品目	選別後の活用方法等
びん・缶・ペットボトル	一括選別して中沼資源選別センターに搬入し、品目ごとに再選別。
電線・その他金属	金属再生事業者へ売却。
軟質プラスチック等	ごみ資源化工場の固形燃料原材料として活用。

■令和3年度 事業計画

※設定根拠：公社事業系ごみ収集運搬計画に基づき設定。

項目	計画	摘要
不燃用プリペイド袋受入量	2,000 t	前年度計画比 9.5% 減、前年度実績見込比 0.7% 減
資源物	674 t	前年度計画比 13.0% 減、前年度実績見込比 1.2% 減

【参考】図2-1 令和3年度 不燃用プリペイド袋リサイクル事業計画フロー図



【参考】表2-2 直近3年間の事業実績と 令和3年度 計画 (※2年度 は見込、同上段は計画値)

項目	直近3年間の実績				R03年度 計画	摘要 (令和03年度計画の状況)	
	H30年度	R元年度	R02年度 (見込)	平均			
受入量	2,242 t	2,204 t	2,210 t 2,014 t	2,153 t	2,000 t	計画比 9.5% 減 実績見込比 0.7% 減	
資源物	びん・缶・ペットボトル	323 t	314 t	274 t	304 t	280 t	
	電線・その他金属	119 t	115 t	102 t	112 t	104 t	※内電線屑 4 t 程度
	軟質プラスチック等	311 t	313 t	306 t	310 t	290 t	
	資源物合計	753 t	742 t	682 t	726 t	674 t	
残さ	1,560 t	1,544 t	1,395 t	1,500 t	1,393 t		
リサイクル率	32.6%	32.5%	32.8%	32.6%	32.6%	資源物合計/(資源物合計+残さ)	

3 資源化事業（予算額 1,215,296 千円）

3-1 剪定枝等処理事業（予算額 59,346 千円）

■事業概要

事業経緯	平成 20 年 9 月の旧札幌リサイクル公社廃止に伴う継承事業で、平成 20 年 10 月から当会社の自主事業として実施している。
実施内容	街路樹、公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木等を受け入れ、破碎処理等して 45mm以下のチップに加工し、堆肥の原料や燃料チップ、畜舎の敷きわら等として需要先に供給している。
実施場所 (受入施設)	篠路資源化センターのチップ工場 昭和 63 年 3 月完成の市有施設 ※行政財産使用許可を得て、有償で公社が借り受け 横型回転破碎機 (15 t/h) ×1 基、ロータリースクリーン設備等
目的・効果	資源の有効利用、清掃工場の負荷軽減、埋立地の延命化。

【受入対象物】街路樹や公園、建設工事等から発生した剪定枝、伐採木、抜根

【受入条件】幹は直径 80 cm以内、長さ 2m以内

根は最大寸法（直径または長さ）1m以内で、土を落としたもの

【チップ仕様】45mm 以下（用途に応じ原料の水分量を考慮、大きさ等を調整）

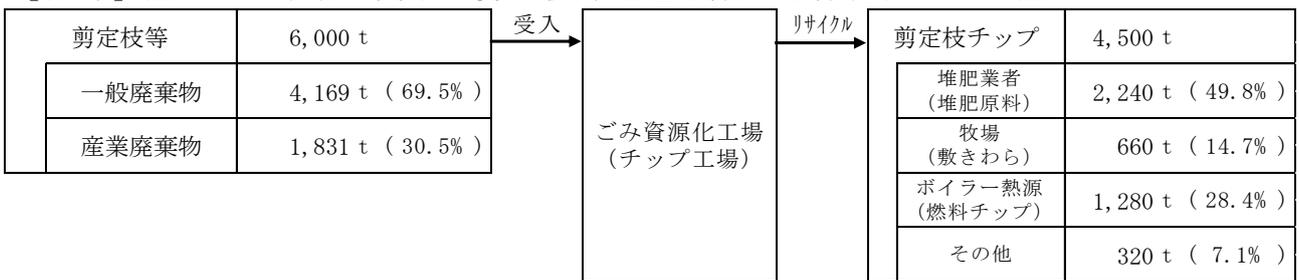
【供給先】堆肥生産事業者（堆肥原料）、熱供給事業者（燃料）、牧場（敷きわら）

■令和3年度 事業計画

項目	計画	摘要
剪定枝等受入量	6,000 t	前年度計画比 20.0% 減 前年度実績見込比 6.9% 減
チップ搬出量	4,500 t	前年度計画比 35.7% 減、前年度実績見込比 4.6% 増

※設定根拠 受入量：年度により変動があることから直近の実績より少なめに設定。
チップ出荷量：受入量に見合う数量を設定。

【参考】図3-1 令和3年度 剪定枝等処理事業 事業計画フロー図



【参考】表3-2 直近3年間の事業実績と 令和3年度 計画（※2年度 は見込、同上段は計画値）

項目	直近3年間の実績				R03年度 計画	摘要 (令和03年度計画の状況)
	H30年度	R元年度	R02年度 (見込)	平均		
剪定枝等受入量	9,425 t	7,914 t	7,500 t 6,447 t	7,929 t	6,000 t	計画比 20.0% 減 実績見込比 6.9% 減
チップ出荷量	8,691 t	8,317 t	7,000 t 4,301 t	7,103 t	4,500 t	計画比 35.7% 減 実績見込比 4.6% 増

※平成30年度は9月の台風倒木、胆振東部地震復旧関連の伐採木等による増要因あり。

3-2 びん・缶・ペットボトル選別事業（予算額 959,279 千円）

■事業概要

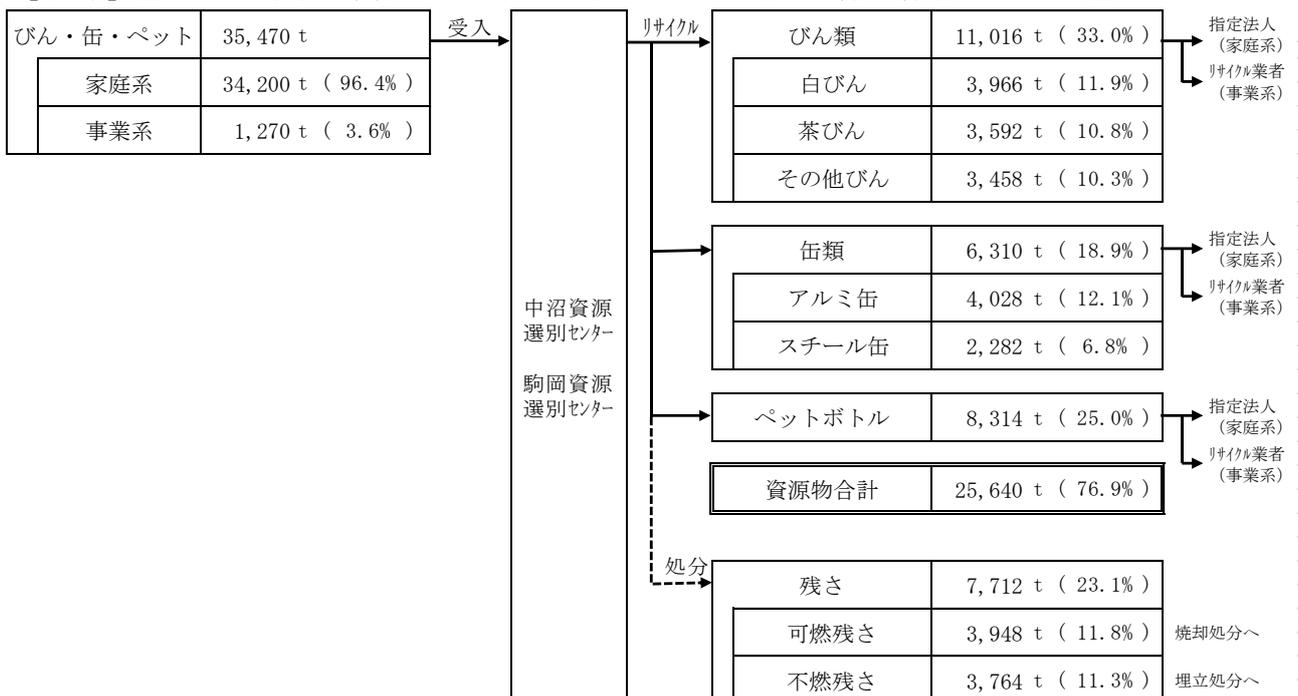
事業経緯	札幌市が容器包装リサイクル法に基づくびん・缶・ペットボトルの資源物収集を開始するにあたり、公社が選別施設を建設して市から選別業務の委託を受ける旨の協定を締結、施設の完成後、平成10年10月から本格実施している札幌市からの受託事業。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市が収集する家庭から排出されるびん・缶・ペットボトルを受け入れ、国及び(公財)日本容器包装リサイクル協会の分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、リサイクル業者に引き渡す等している。 公社が収集する事業系のびん・缶・ペットボトルについても、公社の自主事業として同様の処理を行っている。 なお、駒岡センターの手選別業務については、札幌市との当初の協定に基づき、障がい者雇用促進の一環として軽度知的障がい者の福祉団体に委託している。
実施場所 (受入施設)	中沼資源選別センター（平成10年9月竣工） 処理能力 36.7 t/日(8h)×3系列=110 t/日(8h) 駒岡資源選別センター（平成10年9月竣工） 処理能力 38.5 t/日(8h)×2系列= 77 t/日(8h)
目的・効果	資源の有効利用、埋立地の延命化

■令和3年度 事業計画

※設定根拠：公社事業系ごみ収集運搬計画に基づき設定。

項目		家庭系	事業系	合計	摘要
受入量	中沼資源選別センター	23,114 t	949 t	24,063 t	
	駒岡資源選別センター	11,086 t	321 t	11,407 t	
	合計	34,200 t	1,270 t	35,470 t	前年度計画比 1.7% 減 前年度実績見込比 3.5% 減

【参考】図3-3 令和3年度 びん・缶・ペットボトル選別事業事業計画フロー図



【参考】表3-4 直近3年間の事業実績と 令和3年度 計画（※2年度 は見込、同上段は計画値）

項 目	直近3年間の実績				R03年度 計画	摘 要 (令和03年度計画の状況)	
	H30年度	R元年度	R02年度 (見込)	平均			
受入量	35,232 t	(計画値→) 35,289 t	36,093 t 36,759 t	(計画値→) 35,760 t	35,470 t	計画比 1.7% 減 実績見込比 3.5% 減	
家庭系	33,677 t	(計画値→) 33,777 t	34,500 t 35,527 t	(計画値→) 34,327 t	34,200 t	計画比 0.9% 減 実績見込比 3.7% 減	
事業系	1,555 t	(計画値→) 1,512 t	1,593 t 1,232 t	(計画値→) 1,433 t	1,270 t	計画比 20.3% 減 実績見込比 3.1% 増	
資源物搬出量	びん	11,528 t	11,458 t	11,315 t	11,434 t	11,016 t	家庭系のみ 指定法人ルート
	白びん	4,372 t	4,071 t	4,071 t	4,171 t	3,966 t	
	茶びん	3,739 t	3,766 t	3,697 t	3,734 t	3,592 t	
	その他びん	3,417 t	3,621 t	3,547 t	3,528 t	3,458 t	
	缶	6,097 t	6,090 t	6,574 t	6,254 t	6,310 t	
	アルミ缶	3,712 t	3,813 t	4,244 t	3,923 t	4,028 t	
	スチール缶	2,385 t	2,277 t	2,330 t	2,331 t	2,282 t	
	ペットボトル	7,808 t	8,260 t	8,711 t	8,260 t	8,314 t	びんと同様
	資源物搬出量合計	25,433 t	25,808 t	26,601 t	25,947 t	25,640 t	
	残さ	可燃残さ	4,445 t	4,200 t	4,078 t	4,241 t	3,948 t
埋立残さ		3,431 t	3,264 t	3,982 t	3,559 t	3,764 t	
残さ合計		7,876 t	7,464 t	8,060 t	7,800 t	7,712 t	
リサイクル率	76.4%	77.6%	76.7%	76.9%	76.9%		

※リサイクル率=資源物搬出量合計/(資源物搬出量合計+残さ合計)

※令和03年度計画は「令和3年度 資源物等搬出計画量」による

【資源物の引き渡しについて】

- 札幌市収集分の資源物については、資源物の種類ごとの市況に応じ、(公財)日本容器包装リサイクル協会を通じた指定法人ルートまたは札幌市が再商品化事業者と直接契約する独自ルートのいずれかで再商品化事業者引き渡ししている。
- 会社が収集した事業系の資源物（搬入量比で按分）については、札幌市の家庭系資源物が指定法人ルートまたは独自ルートのいずれかで引き渡し先となったリサイクル業者（再商品化事業者）を相手方とし、会社が独自に別途契約して引き渡ししている。

■重点事業

施設の計画的な保全

- (1) 中沼資源選別センター・・・業務用空調設備（チラーユニット）及びトラックスケールを更新する。
- (2) 駒岡資源選別センター・・・NO1 アルミ選別機磁気ロータを更新する。

3-3 施設管理受託事業（予算額 170,010 千円）

■事業概要

事業経緯	札幌市から委託を受け、市有リサイクル施設の運営管理を下記の4つの事業区分で当社が実施している。
実施内容	札幌市からそれぞれ専門業者に別途発注されている各施設のプラント運転、受入、選別、搬出等業務について、市の計画に基づき、密な連絡調整のもと、当社が各作業及び施設運営の総括管理を実施している。 【事業区分】 (1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業 （ごみ資源化工場、篠路破碎工場及び付帯施設、分岐棟） (2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (4) 札幌市リサイクル団地管理事業
目的・効果	市有施設の適正かつ効率的運用による安定したごみ処理の実施。

■令和3年度 事業計画

(1) ごみ資源化工場ほか施設管理事業（予算額 79,740 千円）

【対象施設と事業内容】

①ごみ資源化工場及び貯留サイロ

- ・RDF工場（平成2年3月完成）、チップ工場（昭和63年3月完成）、貯留サイロ（昭和61年6月完成）
- ・事業系の紙くず及び木くずを受け入れて固形燃料を生産し、熱供給事業者へ供給
- ・公社の実施内容はごみ資源化工場運営の総括管理及び計量徴収業務（平成19年度までは運転・運搬も含めて一括受注）
- ・別途発注業務（資源化工場運転業務、RDF等運搬業務）

②篠路破碎工場、篠路破碎工場付帯施設

- ・篠路破碎工場及び付帯施設（旧清掃工場の受変電等設備：昭和55年12月完成）
- ・公社の実施内容は破碎工場の運営及び付帯施設運転の総括管理
- ・破碎工場における自己搬入ごみ、大型ごみ等の受入及び破碎処理
- ・別途発注業務（計量業務、破碎工場運転業務、可燃物運搬業務、付帯施設運転業務）

③分岐棟（インフラ供給施設）

- ・付帯施設に代わる受電設備等のインフラ施設
- ・令和3年度中期から運用開始予定（付帯施設はこれに伴い廃止）
- ・公社の実施内容はインフラ供給施設運転の総括管理
- ・別途発注業務（インフラ供給施設運転業務）

【令和3年度事業計画】

※設定根拠：札幌市ごみ処理計画及び事業実績に基づき設定。

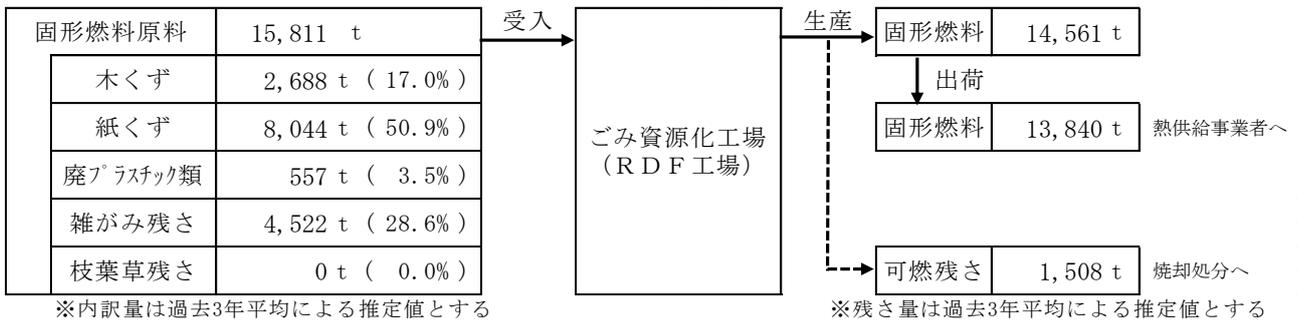
ごみ資源化工場（RDF工場）

項目	計画	摘要	
ごみ受入量	15,811 t	前年度計画比	4.1% 減、前年度実績見込比 9.4% 増
固形燃料生産量	14,561 t	前年度計画比	6.2% 増、前年度実績見込比 10.2% 増
固形燃料出荷量	13,840 t	前年度計画比	1.0% 増、前年度実績見込比 8.7% 増

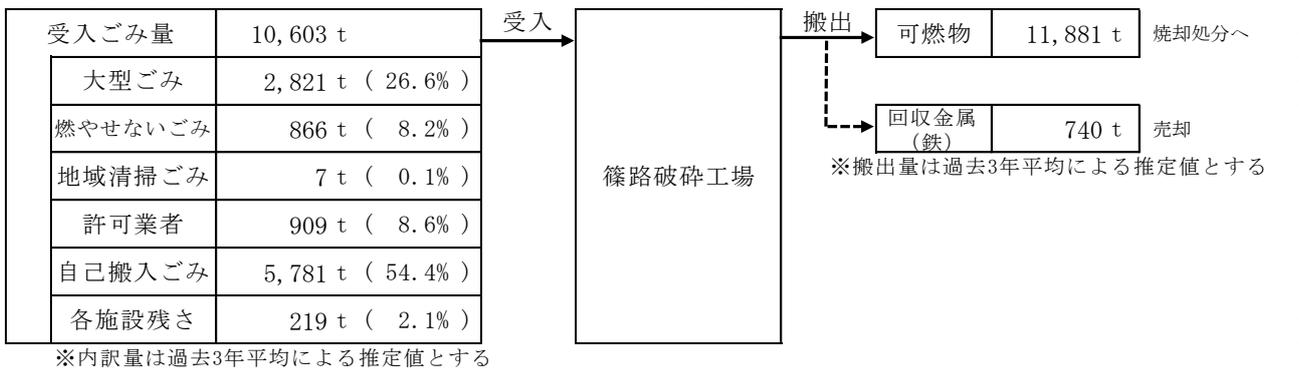
篠路破碎工場

項目	計画	摘要	
ごみ受入量	10,603 t	前年度計画比	4.3% 増、前年度実績見込比 12.7% 減

【参考】図3-5 令和3年度 ごみ資源化工場 事業計画フロー図



【参考】図3-6 令和3年度 篠路破碎工場 事業計画フロー図



【参考】表3-7 直近3年間の事業実績と 令和3年度 計画 (※2年度 は見込、同上段は計画値)

項目	直近3年間の実績				R03年度 計画	摘要 (令和03年度計画の状況)
	H30年度	R元年度	R02年度 (見込)	平均		
資源化工場 (RDF)	ごみ受入量	16,794 t	16,187 t	16,486 t 14,459 t	15,813 t	計画比 4.1% 減 実績見込比 9.4% 増
	固形燃料生産量	13,793 t	13,984 t	13,705 t 13,209 t	13,662 t	計画比 6.2% 増 実績見込比 10.2% 増
	固形燃料出荷量	14,741 t	13,074 t	13,705 t 12,729 t	13,515 t	計画比 1.0% 増 実績見込比 8.7% 増
篠路 破碎工場	ごみ受入れ量	14,313 t	13,187 t	10,163 t 12,141 t	13,214 t	計画比 4.3% 増 実績見込比 12.7% 減
	可燃ごみ搬出量	15,981 t	15,507 t	11,569 t 12,930 t	14,806 t	計画比 2.7% 増 実績見込比 8.1% 減
	金属(鉄)搬出量	937 t	920 t	711 t 909 t	922 t	計画比 4.1% 増 実績見込比 18.6% 減

(2) 中沼プラスチック選別センター施設管理事業（予算額 38,292 千円）

【対象施設と事業内容】

中沼プラスチック選別センター

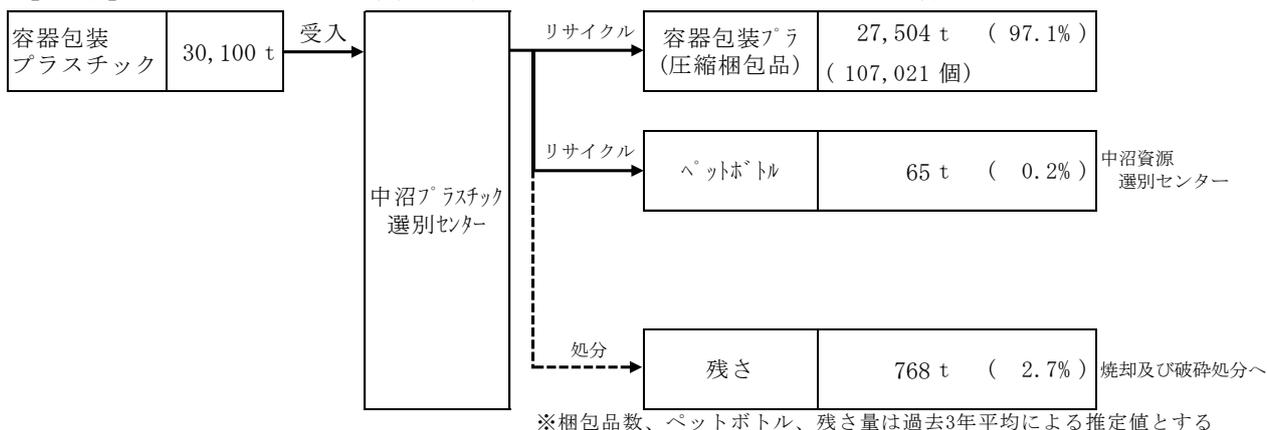
- ・平成12年6月完成 処理能力82.6 t/日（3系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成）
- ・市が収集する容器包装プラスチックごみを受け入れ、国及び（公財）日本容器包装リサイクル協会が定める分別基準に従い、選別・圧縮・梱包等の処理を行い、同協会を通じて再商品化事業者へ引き渡す事業。
- ・再商品化事業者におけるリサイクル用途は再生プラスチックや高炉還元剤等。
- ・公社の実施内容は、市との密な連絡調整に基づく別途発注業務の総括管理。
- ・別途発注業務（運転業務、残さ運搬業務、等）

【令和3年度事業計画】

※設定根拠：札幌市ごみ処理計画及び事業実績に基づき設定。

項目	計画	摘要
容器包装プラスチック受入量	30,100 t	前年度計画比 1.3% 減、前年度実績見込比 3.2% 減
圧縮梱包品引渡量	27,504 t	前年度計画比 1.1% 減、前年度実績見込比 3.7% 減

【参考】図3-8 令和3年度 中沼プラスチック選別センター事業計画フロー図



【参考】表3-9 直近3年間の事業実績と 令和3年度 計画 (※2年度 は見込、同上段は計画値)

項目	直近3年間の実績				R03年度 計画	摘要 (令和03年度計画の状況)
	H30年度	R元年度	R02年度 (見込)	平均		
容器包装プラ受入量	29,549 t	29,992 t	30,500 t 31,111 t	30,217 t	30,100 t	計画比 1.3% 減 実績見込比 3.2% 減
圧縮梱包品引渡量	26,921 t	27,490 t	27,810 t 28,573 t	27,661 t	27,504 t	計画比 1.1% 減 実績見込比 3.7% 減

(3) 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (予算額 26,572 千円)

【対象施設と事業内容】

中沼雑がみ選別センター

- ・平成 21 年 7 月供用開始 (平成 9 年 4 月完成の旧建設系廃材リサイクルセンターを改修)
- ・処理能力 85 t/日 (2 系統の選別ライン、圧縮梱包機等で構成)
- ・市が収集する家庭から排出される雑がみを受け入れ、選別、圧縮・梱包して、市が一般競争入札で売却先とした再資源化事業者へ引き渡す事業。
- ・再資源化事業者における雑がみ等の用途は再生紙、トイレットペーパーの原料等。
- ・公社の実施内容は、市との密な連絡調整に基づく別途発注業務の総括管理。
- ・別途発注業務 (運転業務、手選別業務、残さ運搬業務、等)

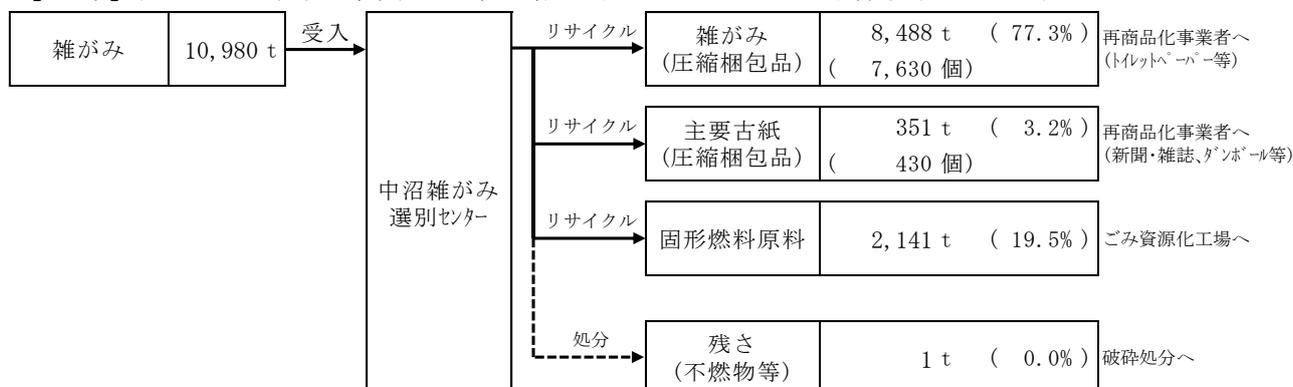
※手選別業務については知的障がい者雇用のため福祉団体に委託されている。

【令和3年度事業計画】

※設定根拠：札幌市ごみ処理計画及び事業実績に基づき設定。

項目	計画	摘要
雑がみ受入量	10,980 t	前年度計画比 1.8% 減、前年度実績見込比 7.8% 増
雑がみ圧縮梱包品引渡量	8,488 t	前年度計画比 4.5% 減、前年度実績見込比 11.4% 増
主要古紙圧縮梱包品引渡量	351 t	前年度計画比 10.2% 減、前年度実績見込比 5.2% 増
圧縮梱包品引渡量合計	8,839 t	前年度計画比 4.7% 減、前年度実績見込比 11.2% 増

【参考】図3-10 令和3年度 中沼雑がみ選別センター 事業計画フロー図



※梱包品数、残さ量は過去3年平均による推定値とする

【参考】表3-11 直近3年間の事業実績と 令和3年度 計画 (※2年度 は見込、同上段は計画値)

項目	直近3年間の実績				R03年度 計画	摘要 (令和03年度計画の状況)
	H30年度	R元年度	R02年度 (見込)	平均		
雑がみ受入量	10,883 t	10,561 t	11,180 t 10,185 t	10,543 t	10,980 t	計画比 1.8% 減 実績見込比 7.8% 増
圧縮梱包品引渡 量 (雑がみ)	8,362 t	7,874 t	8,888 t 7,619 t	7,952 t	8,488 t	計画比 4.5% 減 実績見込比 11.4% 増
圧縮梱包品引渡 量 (主要古紙)	364 t	327 t	391 t 333 t	341 t	351 t	計画比 10.2% 減 実績見込比 5.2% 増
固形燃料原料	1,969 t	1,969 t	1,901 t 2,126 t	2,021 t	2,141 t	計画比 12.6% 増 実績見込比 0.7% 増

(4) 札幌市リサイクル団地管理事業（予算額 25,406 千円）

【管理対象施設】 札幌市リサイクル団地

- ・札幌市リサイクル団地は、廃棄物の適正処理・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群。
- ・平成6～8年度に札幌市が基盤造成を実施、平成7年度から順次官民のリサイクル施設が立地し、現在は民間6社7施設、市有2施設、公社1施設の合計10施設が稼働している。

【事業内容】

- ・当該団地管理事業は札幌市から委託を受けて公社が下記の業務を行うもの。
 - ①リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
 - ②リサイクル資料館、ふれあいホールの維持管理業務
 - ③井水供給設備の維持管理業務
 - ④団地内の市道及び雨水桝等点検、雨水調整池等整備、市道清掃、除排雪、臭気指数等調査
 - ⑤リサイクル団地協議会の運営業務（会議は原則月1回開催：7・12月を除く）
 - ⑥その他の管理業務

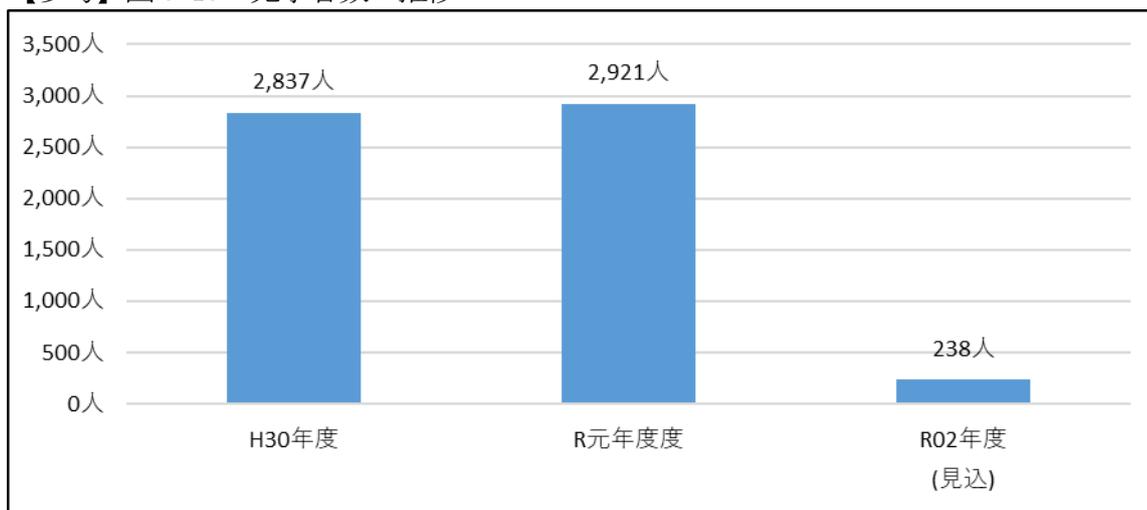
【参考】 表3-12 直近3年間の見学対応実績（※2年度 は見込み）

項目	直近3年間の実績				摘要
	H30年度	R元年度	R02年度 (見込)	平均	
見学件数	165件	168件	32件	122件	計画値の設定は行わない
見学者数	2,837人	2,921人	238人	1,999人	計画値の設定は行わない

※見学申込みの受付案内は当公社ホームページに掲載。

※令和2年度、新型コロナウイルス感染拡大防止策として札幌市及び公社施設は見学中止。

【参考】 図3-13 見学者数の推移



3-4 大型ごみ収集センター管理運営事業（予算額 26,661千円）

■事業概要

事業経緯	札幌市が平成9年度から開始した大型ごみの戸別収集の申し込み受付等を行う大型ごみ収集センターについては、当初は管理部門を市の直営体制で行っていたが、平成11年度から当公社が受託し、市との密な連携のもと、事業を実施している。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市の所管課及び別途発注業務との総括調整 別途発注業務：電話受付業務、収集業務 収集車両台数の調整、未収集等苦情対応、作業調整等 電話受付業務受託者が対応困難な苦情・問合せ等への対応
実施場所	大型ごみ収集センター（北1条西10丁目 ユーネットビル2F）
目的・効果	札幌市のごみ処理計画に基づく円滑な事業の実施。

■令和3年度 事業計画

※設定根拠：直近数年間の事業傾向に基づき設定。

項目	計画	摘要			
受付・問合せ件数	484,100件	前年度計画比	1.0%減	前年度実績見込比	5.3%減
収集件数	328,528件	前年度計画比	3.1%減	前年度実績見込比	5.3%減
収集個数	812,284個	前年度計画比	4.3%減	前年度実績見込比	5.3%減
収集量(重量)	11,800 t	前年度計画比	0.8%減	前年度実績見込比	5.3%減

【参考】表3-14 直近3年間の事業実績と 令和3年度 計画（※2年度 は見込、同上段は計画値）

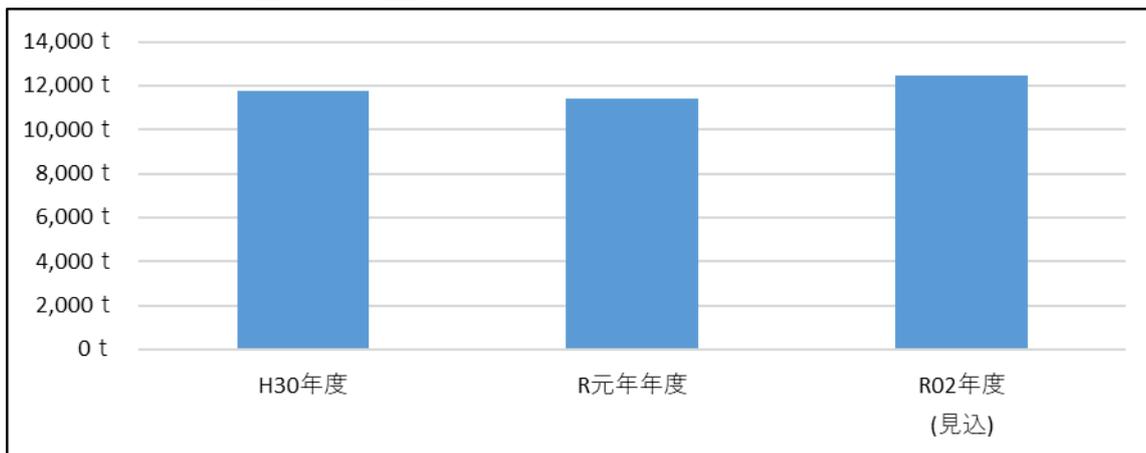
項目	直近3年間の実績				令和03年度 計画	摘要 (令和03年度計画の状況)	
	H30年度	R元年年度	R02年度 (見込)	平均		計画比	実績見込比
受付・問合せ件数	472,700件	473,494件	488,761件 511,127件	485,774件	484,100件	1.0%減	5.3%減
収集件数	328,257件	325,412件	339,179件 346,870件	333,513件	328,528件	3.1%減	5.3%減
収集個数	826,842個	812,544個	848,569個 857,634個	832,340個	812,284個	4.3%減	5.3%減
収集量(重量)	11,768 t	11,403 t	11,900 t 12,459 t	11,877 t	11,800 t	0.8%減	5.3%減

※平成30年度実績の増要因：平成30年9月の胆振東部地震により破損家具等の搬入が増加

※令和元年度実績の増要因：令和元年10月の消費税増税に伴う駆込み排出により増加

※令和02年度実績の増要因：新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、在宅時間が増加

【参考】図3-15 大型ごみ収集量推移



4 事業系ごみ収集運搬事業 (予算額 5,799,047 千円)

■ 事業概要

事業経緯	平成6年4月から実施している公社の自主事業。
実施内容	1. 札幌市内の契約事業所が排出する事業系一般廃棄物の収集運搬。 ・焼却する「一般ごみ」と「リサイクルごみ」に分けて分別収集。 ・リサイクルごみの種類は、紙くず・木くず・軟質プラスチックの「資源化ごみ」、「生ごみ」、「不燃用プリペイド袋」、「剪定枝」、「びん・缶・ペットボトル」 2. 家庭から排出される引越ごみなどの一時的な多量ごみや自作パソコンの収集運搬。
収集先	伝票収集：約 10,000 事業所、プリペイド袋収集：約 22,000 事業所
運搬先	「一般ごみ」→ 白石・駒岡・発寒の各清掃工場 「資源化ごみ」「不燃用プリペイド袋」「剪定枝」→ 篠路の資源化工場 「生ごみ」→ 中沼の札幌飼料化リサイクルセンター、定山溪環生舎 「びん・缶・ペットボトル」→ 中沼・駒岡の各資源選別センター
目的・効果	廃棄物の適正処理とリサイクルの推進

■ 令和3年度 事業計画 (年間収集量)

ごみの種類	収集量:体積 (m ³)	収集量:重量 (t)
一般ごみ	757,890 (858,020)	122,720 (138,045)
資源化ごみ	87,520 (97,190)	6,840 (7,600)
生ごみ	43,460 (50,400)	19,650 (22,770)
不燃用プリペイド	25,540 (27,550)	2,000 (2,210)
剪定枝	2,450 (2,490)	200 (225)
びん・缶・ペットボトル	15,100 (18,560)	940 (1,220)
合計	931,960 (1,054,210)	152,350 (172,070)
【前年度計画比】	【11.6%減】	【11.5%減】

※()内は前年度計画量。

■ 直近3年間の事業実績

	直近3年間の実績				R3年度 計画	前年度比
	H30年度	R元年度	R2年度見込	平均		
体積 (m ³)	1,060,477	1,045,842	918,247	1,008,189	931,960	計画比 11.6%減 見込比 1.5%増
重量 (t)	174,221	169,963	144,829	163,004	152,350	計画比 11.5%減 見込比 5.2%増

■ 重点計画

(1) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化

① 総収集回数の削減に向けた取組み

事業所毎の排出量と当該事業所の収集回数が見合っていない過剰な収集回数が効率化の進まない大きな原因となっているため、収集量と収集回数を整合させるなどにより総収集回数を削減していく。

また、非効率な収集ルートについて、収集件数、取決事項、走行距離などの非効率要因を、調査・分析して、出来るところからルートの統合・再編成などの見直し作業を進める。

② 事務作業・収集作業に支障のある顧客サービスの見直し

搬入証明書の発行など、事務作業の効率化に支障をきたしているサービスの見直しを図るとともに、電話やFAXによる当日の収集受付は、円滑な収集作業の支障となることから改善に取り組んでいく。

(2) インターネットを活用した顧客サービスの充実

令和2年10月よりWEBサポート機能のひとつとして、「プリペイド袋収集受付システム」を導入し、顧客からのプリペイド袋収集の依頼を24時間受付できる体制としたが、この受注件数がプリペイド袋受注件数全体の約4割を占めるなど順調に利用率が向上している。

今後は、現在、午後5時までの受注受付を翌日収集としているが、「プリペイド袋受注データ自動配車機能」を稼働させることにより、翌日収集の受注受付時間を延長することが可能となるなど、顧客サービスの充実を図っていく。

また、WEBサポート機能の「年間収集実績」「請求金額のお知らせ」「プリペイド袋収集受付システム」の登録の有・無、ユーザーID、初期パスワードなどの各アカウント情報を「業務管理システム」に表示させる機能を追加する。

(3) 「業務管理システム」のサーバーの更新

「業務管理システム」のサーバーは、稼働してから6年を経過しており、マイクロソフトのサーバーOSサポート期間も2023年1月で終了することから、周辺機器も含めて計画的に更新するとともに更新したサーバーを業務管理システムに対応するために一部システムの改修等を行っていく。